

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502611		
法人名	有限会社札幌介護サービス		
事業所名	グループホーム藤野いこいの家		
所在地	札幌市南区藤野3条6丁目5-5 (電話) 011-594-4151		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年3月11日

【情報提供票より】 (21年 1月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 16 年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~50,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 16,000円 暖房費: 5,000円/月(11-3月)
敷 金	有 (30,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,330 円

(4) 利用者の概要 (2 月 1 日現在)

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名	
要介護1	3 名	要介護2	7 名			
要介護3	3 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原クリニック札幌病院 坂井歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム藤野いこいの家は、自然に恵まれた地域にありながら、バス停や大型店・銀行等からも徒歩数分の場所に位置しており、家族等の訪問や買物に便利な環境にある。2階建ての建物は内部がバリアフリーで、トイレの数も多く設備が整っている。ホーム内には職員の手製の木製カレンダーや表札、タペストリー、利用者が職員と協力して作った作品が飾られ、暖かな雰囲気である。管理者及び職員は、サービスの向上に熱意を持って取り組んでおり、利用者は、一人ひとりが自分のペースでゆったりとした時間を過ごしており、急がせるような場面は見られない。運営者は職員の教育に熱心で、外部研修にも全員が毎年参加している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度の取り組み事項であった、運営推進会議を2カ月に1回開催することについては、日程の調整や議題の選定などが困難であったことから至らなかったが、参加者との意見交換は活発であり、内容は充実していた。21年度に引き続き実現に向けて取り組む予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に対しては、管理者がスタッフ会議で、評価の意義と理解を周知し、管理者と職員が全員で取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の討議内容は、ホームでの行事や日常のケアに関する活動報告が主であるが、開催のたびに参加者からは活発な意見がでているので、それらを参考に、日々のサービス向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。不満や意見が出た場合は、その都度話し合い解決するように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭や町内会の行事に職員が利用者とともに参加している。ホーム周辺のみではなく、少々遠方の催しであっても参加するようにして、利用者が地域の人々と交流できる機会を作っている。今後も、幅広く地域活動に参加していく計画である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、4つの分かりやすい基本理念から成り立っている。理念及び基本方針は、各フロアに掲示され、日常のケア等に生かされている。現状の理念をさらに職員が理解しやすく身近なものになるよう検討を加えているところである。	○	現状の理念をさらに職員が理解しやすく身近なものになるよう検討することにより、理念をさらに進化させたいとのことであり、取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者及び管理者は、新たに職員を採用する際のオリエンテーションや毎月の会議で理念に係る話をしており、職員は、理念を印刷したカードを携帯している。また、日常のケアの指針として、機会のあるごとに理念を全員で確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭や町内会の行事に職員が利用者とともに参加している。前年度の取り組み事項であった老人クラブへの参加についてはまだ実現されていないが、ホーム周辺のみではなく、少々遠方の催しであっても参加するようにして、利用者が地域の人々と交流できる機会を作っている。	○	今後も、老人クラブに限定せず幅広く地域活動に参加していくとのことであり、その取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議で、評価の意義と理解を周知し、外部評価の結果を踏まえてサービスの質の向上に取り組んでいる。自己評価を実施する際は、管理者と職員が全員で取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度の取り組み事項であった、運営推進会議の2カ月ごとの開催は、日程の調整や議題の選定などが困難なことから至らなかったが、参加者との意見交換は活発であり、内容は充実していた。	○	21年度には、参加者に対して、早期に日程を連絡し、議題も自己評価・外部評価の内容から選定する方法で、2カ月に1回開催できることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に区の担当者や包括支援センターを訪問しているが、積極的に情報交換を行うところまでは至っていない。	○	今後は、定期的な訪問に加えて積極的に情報を提供したり、意見交換を行っていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホーム便り」や個人ごとの近況を、定期的に家族宛てに郵送している。金銭出納報告は、家族の訪問の際に承認を得ているが、毎月定期的に送付する仕組みにはなっていない。	○	金銭出納報告を毎月定期的に送付する仕組みを作ることに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。不満や意見が出た場合は、その都度話し合い解決するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の交代は基本的には行わず、離職などの理由で職員が交代した際は、利用者への配慮とともに家族等へは、訪問や行事など顔を合わせる機会のあるごとに説明している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内部でのフロー研修を毎月1回行っており、外部研修についても全職員がおおよそ1年に1回は受講している。受講した職員は会議での報告等を行うことで全員が研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区の管理者会議に積極的に参加しており、職員ともども区内のグループホームへの行事参加や実地研修をした実績があるので、今後も継続していきたいと考えている。特に新しい職員には、積極的に他ホームでの経験をさせていくつもりである。21年度には、職員と利用者が一緒に区内のグループホームと交流することを企画している。	○	21年度は、職員と利用者が一緒に区内のグループホームと交流することを企画しているとのことなのでその取り組みに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族等に必ずホームを見学してもらっている。希望があれば、入居者と一緒に食事をするなどの体験もできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対して、人生の先輩として尊敬の念を持って接している。利用者から季節の行事や料理の盛り付けの仕方、礼儀作法、先祖を敬う心など教えてもらうことも多く、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者及び職員は、利用者や家族との日々の関わりの中で、過去の経歴や趣味などの情報を参考に、一人ひとりの思いや意向について関心を寄せ、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、入居後数週間生活の様子を観察し、本人や家族の意向、医療情報などを基にフロア会議で全職員が原案を検討している。担当職員と計画作成担当者が協同して作成する介護計画は、再びフロア会議で検討し、その後は家族同席で本人に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	経過記録、センター方式の焦点情報シート、カンファレンスノートなどの記録を基にフロア会議で見直しをしている。定期的な見直しは、6ヶ月ごとであるが転倒などによる歩行状態の変化や食事量、水分量の低下、会話が少なくなるなどの心身の状況の変化に応じて随時、見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、看護師を職員として配置しているので皮膚の観察や便秘対策などの健康状態に即応している。併設のディサービスで行われるカラオケや餅つきなどの行事に参加することもあり、また、個人の希望による買物などの外出を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医を確認し、受診の希望を把握している。かかりつけ医、事業所、家族と連携を図り、適切な医療を受けることができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に「医療連携体制の確保と重度化看取り対応指針について」の書面を用いて事業所の方針を説明している。本人、家族の希望がある場合は、医療機関と連携し事業所での看取りを実施していくことを明らかにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「利用者本位」という理念に基づき幼児に対するような言葉や命令口調とならないよう、職員間で注意し研修のテーマに取り上げ学習をしている。2ユニットのノート形式の面会受付簿は、1階の共有玄関に設置し、面会者が記入をしている。	○	プライバシーの確保の徹底のために面会受付簿を廃止するとの考えなので、その実現を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などの大まかな日課はあるが、朝食は、起床時間に応じて個別対応をしている。運動や体操、レクリエーションに参加したり、好きなテレビを楽しむなど一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、職員が利用者の希望を取り入れながら1週間分を作成し、前日に徒歩数分のスーパーへ利用者を買出しに出かけている。利用者は野菜を洗う、切る、味付けをするなどの他に、椅子に座ってできるもやしの根取りや男性の利用者はテーブル拭きなどを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に最低でも2回は入浴をしており、曜日や時間帯は決めず夜間も含めて入浴が可能となっている。夏季は、随時シャワーで汗を流している。複数の入浴剤を用意し利用者に選んでもらうことで入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の買出しに出かけたり、居間や廊下の手すりの拭き掃除などのそれぞれの役割を持って生活をしている。カラオケを歌うことが好きな利用者が多いので、週末はディサービスのカラオケの機械を借りて歌を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、天候やその日の体調に応じて事業所の周囲の1~2区画をほぼ毎日散歩している。畑の野菜の生育状況を観察したり、近くにある池で泳いでいる鯉の様子を眺めることもある。冬季は、月に1回は、車を利用しての外出行事を位置づけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず玄関に鈴を付けたり、利用者の居場所を把握することで安全に配慮をしている。2階から階段を使って1階へ降りていく利用者へは、2階の職員が同行し、1階のユニットでお茶の時間を設けるなどユニット間で見守り体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、日中の火災を想定して避難誘導や消火器の使用方法などについて自主訓練を行っている。消防署や近隣の大型店舗、住民を含めた緊急連絡網を作成し、地域の人々の協力態勢を整えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	標準体重を維持できるように定期的に体重の管理を行い、献立を工夫している。食事量や水分量は全員、個別に記録をしているが専門的な栄養管理については、協力医療機関に相談をしている。	○	市区と連携を図り、専門的な栄養管理を受けることができるよう、期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、帽子とマフラーを身に付け素焼きの鉢を重ねて作った人形が来訪者を迎えている。居間の出窓で育てている観葉植物や野菜のプランター、季節ごとに作製しているちぎり絵の壁面飾り、フェルト地で手作りした「便所」の表示やレースのカーテンで日差しを調整するなどの方法で居心地よく過ごせる工夫をしている		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の引き戸の横には花の名前の表札が掛かり、居室には大きなクローゼットが備え付けられている。ベッドや椅子、テレビ、戸棚などの家具が持ち込まれ、カレンダーや写真が飾られている。カーペットを部分敷きするなど一人ひとりの身体の状態に応じた居室づくりが行われている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。